

TIC NEWS

vol. **98**
2011.1

(財)とやま国際センター
〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテックビル4F (タワー111)
TEL (076) 444-2500
FAX (076) 444-2600
E-mail : tic@tic-toyama.or.jp
URL : http://www.tic-toyama.or.jp



～第15回とやま国際草の根交流賞表彰式～

去る11月24日、富山県庁3階特別室において、国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”の表彰式が行われました。

第15回とやま国際草の根交流賞 受賞者の皆さま

【個人】

轡田 民子 さん

富山市民国際交流協会の会員として、在住外国人に浴衣の着付けなど日本文化の紹介や家庭料理の作り方、また、赤ちゃんの育児や育児に関する指導を行い、国際友好親善事業に貢献

窪木 靖信 さん

インドネシア教育振興会を設立し、以来、代表としてインドネシアやベトナムの私費留学生に対する奨学金の供与や生活支援等に取り組んだ。またインドネシアの小学校の整備を支援するなど国際協力事業に貢献

澤井 正治 さん

富山県日中友好協会理事や八尾町日中友好協会事務局長として、中国人のホームステイを積極的に受け入れた。また、中国語教室を開設するとともに、中国から嫁入りした人達と交流を深め、国際友好親善事業に貢献

中根 英子 さん

富山県海外移住家族会や富山市海外移住家族会の役員として、南米との交流活動に積極的に参加するとともに、オーストラリアやカナダからの留学生の受入事業などにも積極的に取り組み、国際友好親善事業に貢献

福本 誠さん

NPO法人地球の夢を設立し、以来、代表としてスリランカやフィリピンで幼稚園や給食施設の建設を支援した。また、JICAと協働で「スリランカ南部州への定置網漁業の導入プロジェクト」を立ち上げ国際協力事業に貢献

利田 みさき さん

アジア太平洋子ども演劇祭、とやま世界こども舞台芸術祭などにおけるバレエの指導や、中国遼寧バレエ学校で合同公演を開催するなど、バレエを通じた国際友好親善事業に貢献

【団体】

高岡日本語教室

青年海外協力隊としてホンジュラスで活動した五箇氏が代表となり、地域の公民館で日本語教室を開設した。同教室では日本語指導の他に、日本の文化に触れる交流会なども行い多文化共生の推進に貢献

南砺ラオス会

ラオスや周辺国の教育環境改善の一助となるよう、教科書や文具の寄付活動や募金活動を行った。また、市内外から集めた中古ピアノ等を寄贈する活動に取り組むなど国際協力事業に貢献

第4回日本海学講座「海の恵みと名水のまち生地」

日時：平成22年10月2日(土)

場所：黒部市生地地区

晴天の中、18名が黒部市コミュニティーセンターに集合。くろべ漁業協同組合組合長の松野均氏による生地についての紹介の講義後、黒部観光ボランティアの会の松野勢津子氏、蛇沢道雄氏の案内により、生地のまち歩きを行いました。1か所ごとに違う名水を飲み比べたり、背戸川の川底からでる湧水などを見ながら、各施設を見学しました。皇國晴酒造では、生地の名水を使用した酒造りの話を聞き、酒蔵を特別に見学しました。漁業資料館では、漁具や地引網の模型の他に、北海道に次いで二番目に多いという富山の北方領土からの移住者の資料も展示されていました。黒部の海の幸を使ったお弁当を食べた後は、伏木海上保安部の協力で生地鼻灯台の説明を受け、特別に上まで登って見学をしました。四十物昆布では富山と昆布とのかかわりや昆布の種類の説明などを聞き、とろろ昆布おにぎりの試食もしました。



日本語ボランティア・スキルアップ テーマ別勉強会 ～外国人のための識字教育について～

日時：平成22年9月7日～11月9日 18：30～20：30

場所：環日本海交流会館

講師：トヤマ・ヤポニカ

地域に住む外国人が、自立し誇りを持って、社会に参加するために必要となる「識字」の力、その識字とは何か、また、よりよい学習支援とはどのようなものかを学ぶ勉強会を開催しました。

10回の勉強会のうち3回行った模擬活動には、実際に地域の日本語教室で学習している外国人の方々に参加してもらいました。

識字教育とは「外国人住民の社会参加そしてエンパワーメントにつなげるもの」、「日本人ボランティアは“伴走者”として漢字学習に望む外国人に寄り添うもの」ということを確認して、受講者は模擬活動にのぞみました。

模擬活動の後の振り返りでは、「理解してもらおうとの思いが強すぎて、2～3人が同時に話しかけるケースがあった。」「漢字をなんとか教えようという気持ちが強く動きすぎていたと思う」など受講者の苦労や試行錯誤がにじみ出ていました。

最後のまとめでは、受講者から「地域の日本語教室で一日に2～3の漢字を覚えて何になるのだろうか」という疑問がでしたが、他の受講者からは「識字教育の最終目標は学習者自身の自律学習につなげること。そのために、漢字の学習は楽しいと外国人が思うことが大切。ボランティアにできることは生活に役立つ漢字学習に寄り添い、楽しいと思う雰囲気をつくることではないだろうか」という声が聞かれました。

勉強会全体を振り返って「相手は自分と同じ感情を持つ人間です。気持ちを大切に、心を開いて楽しくおしゃべりするのが一番いいのだ」という思いを強くしました。という感想が聞かれました。“伴走者”としての日本語ボランティアの役割を再確認した勉強会になったと思います。



日本語ボランティア・スキルアップ ～ボランティア・リーダーの ための勉強会～

日時：平成22年11月20日(土) 13：30～16：30

会場：環日本海交流会館

講師：らいこむ多文化教室代表 朴 海淑氏

コーディネータ：中河 和子 氏

川崎市で外国の子どもたちの母語・母文化の支援、及び、日本の子どもたちの多文化理解支援活動を行っている「らいこむ多文化教室」代表の朴 海淑氏を講師に招いて開催しました。

今回のテーマは、外国人住民から見た日本語ボランティア活動、そして、外国人住民が自ら行うボランティア活動についてでした。少しずつではありますが、今まで支援される側にいた外国人住民が、支援する側に活動を広げつつある状況が富山に生まれてきました。そのような中、日本人住民と外国人住民が一緒に行う地域の日本語教室の今後の活動の可能性について考えました。

まず、川崎市の外国人市民活動の状況や「らいこむ多文化教室」の活動状況、外国人から見た日本の市民社会などテーマごとに話を聞き、参加した日本人、外国人からも活発な質問や意見が交わされました。

中でも、朴氏の主たる活動である子どもの母語・母文化の支援活動への質問・意見が中心となりました。外国人が散在している富山県では、地域の各日本語教室でも、子どもたちへの支援を行わなくてはならない状況が出てきています。そんな中、試行錯誤しながら活動しているボランティアへ、「できないことは無理しない。できることはスキルアップする。」「日本人として子どもと一緒に話す。学習に寄り添うという姿勢が大切」などという講師の助言がありました。



国際交流人材バンク通訳者セミナー

日時：平成22年12月5日(日)

場所：環日本海交流会館

講師：(財)国際教育振興会 日米会話学院 同時通訳科担当講師 田村 智子 氏

とやま国際センターの国際交流人材バンク登録者を対象に通訳者セミナーを行いました。今回は『日→英』通訳スキルの更なる向上をめざすことを目的に実践練習を行いました。

田村先生からは5つの大事なポイント“1.単語ではなく意味を訳す、2.細部は後回しにして要点をまず訳す、3.臨機応変に、そして決断は速く、4.何が何でも、文(主語+動詞)を完成させる、5.すぐ訳す(3秒以内に)”について説明があった後、実際の日本語の番組を使って、流れていく日本語を冒頭から徐々に英訳していくために細切れの語句や文を速やかに英語の文章にするというワークショップを行いました。

先生からは声をだして練習すること、自分の通訳を録音してみて間違いを分析するといった学習法のアドバイスなどもあり、二時間半の熱気あふれた講義に受講者の皆さんは真剣に取り組んでいました。



講師の田村智子氏

外国人のための就活応援講座

～日本の会社文化、職場で使う日本語を学びましょう!!～

今年度初めて開催した“外国人のための就活応援講座”。

日常生活の日本語には何の不自由はなくても、会社で日本語を使うとなるといろいろな不安を抱えている外国人は多いのではないのでしょうか？

TICでは、そんな皆さんのために、日本の雇用制度、企業文化、会社での敬語の使い方などを学ぶ講座を開催しました。

富山でのキャリアプラン作り

初回の7月4日は、さまざまな国出身の外国人参加者が、自己紹介もかね「日本に来る前にしていた仕事」、「日本に来てからした仕事」、「これからしてみたい仕事」などについてグループで話し合いました。

7/18、8/1、8/29は、「実際日本で仕事を探すには？」ということで、ハローワークの利用の仕方(求職申込書の書き方、求人票の見方)や、履歴書の書き方、面接の受け方について学びました。



講座内容

日時	テーマ
7月4日(日)	“こんな風に働きたい” キャリアプラン作り
7月18日(日)	ハローワークって何？
8月1日(日)	面接を受ける
8月29日(日)	初めての出勤
9月5日(日)	日本の雇用制度を知る
9月19日(日)	会社でのエチケット
10月3日(日)	日本の企業文化とは？
10月17日(日)	同僚・上司との会話(1)
11月7日(日)	同僚・上司との会話(2)
11月21日(日)	会社でのコミュニケーション

プロから学ぶ“より良く働



9月5日は“日本の雇用制度を知る”と題して講義を受けました。

労働条件通知書や雇用契約で注意して

日本で既に働いたことのある参加者から「今の壁って何ですか？」などの具体的な質問が飛び交っていました。

受講者は森先生の懇切丁寧な説明に注意



9月19日は“会社でのエチケット”と題して講義を受けました。

“語先後礼”(言葉を先に言ってから礼)、名刺の渡し方、実技を交えて学びました。名刺は胸のあたりに、お辞儀は胸のあたりに、お辞儀の

その他、来客対応のマナーなど、敬語も学びました。

改めて接遇という企業文化を学ぶ良い機

馮 金紅 さん

中国の大連から仕事で富山に参りました。正直言うと、初めは軽い気持ちで就活講座を受けました。一回目の講座を受けた後、自分の状況が変わりました。この講座は、自分にとってとても良いチャンスだと思い、真剣に参加しました。大変勉強になりました。

今後、もしも日本語と中国語を両方使えるようになったら、もっと知識を生かして行きたいと思

くには?”



...題し、社会保険労務士の森真弓先生から講...
...るべき項目などについての説明がありました。
...は「時間外勤務手当はきちんと払われてい...
...は国に帰ったらどうなるのか?」、「パート...
...的な質問が次から次へと出てきました。
...深く聞きいってました。



...し、吉谷直美講師より接遇、会社でのマナー...
...おじぎの角度の持つ意味など、挨拶の基本...
...高さで受け取り両手で扱うなど、基本的で...
...何度も繰り返し身体で覚えさせました。
...交えてのロールプレイに途中で絶句してし...
...会となりました。



...した。
...就業支援講座...
...後、気持ち...
...にとってあら...
...気持ちで受...
...使う仕事に付いた時には、今回の講座で教...
...ます。

実際、日本の会社員に聞いてみよう!

10月3日は“日本の企業文化とは?”と題し、日本の会社員も参加し、日本で働くことについてみんなで話し合いました。

まず、自分の国で働いていたときと、日本で働いたとき、それぞれ、どんなことを大切にして働いてきたかということについて話し合いました。中国、タイ、ブラジルなど出身の参加者は、自分の国では、“人間関係”(ブラジル)、“上司に認められる”(中国)といったことが大切なのに対し、日本では“時間を厳守すること”、“真面目に仕事に取り組むこと”が大事という答えが目立ちました。



日本人会社員へのインタビューでは、日本人が何を大切にしているかを聞きました。多かった回答は“時間を大切にする”ということで、「納期を守る」、「一日の限られた勤務時間の中でいかに効率よく働くか」を考えることが大切といったことや、報・連・相(報告、連絡、相談)の重要性、現状に満足せず、相手の期待を少しでも上回ることが大事など……たくさんの貴重な意見が聞かれました。

10/17、11/7、11/21は“同僚・上司のとの会話”、“会社でのコミュニケーション”と題し、社内、社外の人とのやりとりをロールプレイで学びました。

電話での受け答え、メモの取り方、丁寧な依頼の仕方、断り方など…使い慣れない長い敬語の言い回しに頭を抱えながらも、実際のビジネス日本語にふれ、日本語学習意欲をあらたにされた皆さんでした。

参加者の皆さんの声

シルビア ソウザ さん

ブラジルから日本に来て8年がたちました。勉強の時間がなかなかとれなくて、今回は日曜の講座なのでいいチャンスと思い受講しました。ビジネス日本語は本当に難しいですが、こんなに自然にコミュニケーションできたら嬉しいです。最近お店の人と日本語で話す機会がありましたが、前はわからなかった「はい、かしこまりました」のようなフォーマルな言葉が耳に入ってくるようになりました。



全国の都道府県で“協力隊ナビ”を毎月開催しています！

“ここに来れば青年海外協力隊OB・OGの体験談が聞ける！”そんな場所をご用意しました。

これは全国47都道府県協力隊OB会による統一企画で、毎月全国の都道府県で開催しています。富山県では、とやま国際センターラウンジで、毎月第2水曜日の夜に協力隊ナビを開催しています。

「協力隊ってどんな活動をしているの？」、「現地で生活は？」、「帰国後の進路はどんなの？」など、青年海外協力隊経験者が皆さんの疑問や質問にお答えします。申込みは不要ですのでお気軽にお越しください。

協力隊ナビ ～協力隊経験者と語ろう～

日時：毎月第2水曜日 18：30～20：30

会場：(財)とやま国際センターラウンジ

内容：青年海外協力隊OB・OGによる体験談や応募相談など

主催：青年海外協力隊富山県OB会

問合せ・連絡先：

JICA国際協力推進員（富山県デスク） 竹中 成行

(TEL) 076-444-2500

(E-mail) jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp



9月に行った協力隊ナビの様子



今回はセントルシアから届いた青年海外協力隊 池田 博一さんからの便りをご紹介します。

私の派遣されている国は、カリブ海にあるセントルシアという島国です。

セントルシアは、人口17万人と少なく、面積は淡路島と同じぐらいで、車で北から南まで、約2時間で着いてしまうほどの面積しかありません。

公用語は英語ですが、クレオール語と言う現地語も話します。クレオール語は、フランス語なまりの言語で、昔この国をフランスとイギリスが取りあったため、この二つの言語が話されています。クレオール語で話すと、現地の人からとても喜ばれ、たくさんしゃべりかけられます。

この国の印象は、皆が思っているカリブ海のイメージそのものです。暑い熱帯性の気候でバナナやマンゴーがいろんな場所で実り、海がきれいで、人々が陽気で明るい。みんな音楽が大好きで、昼でも夜でも音楽が鳴り響き、みんな踊りながら、お酒を飲みながら、毎日を楽しんでいる。まさにカリブの海賊が頭に浮かぶそんな国です。

私は、セカンダリースクールを3校巡回して、生徒に野菜栽培を教えています。この国では、失業率が高く、特に青年層の失業率の割合が高いこと、産業の一つであるバナナの価格が下がっていること等が問題となっています。

学校では、講義が中心のため、せっかく植えた作物が枯れるという事もあります。私は、学校で野菜栽培の授業を行うと共に、生徒と一緒に実習も行うようにしています。

生徒や周りの人に少しでも農業に興味・関心を持って、楽しく取り組んでもらうことが私の目標です。



池田 博一さん

派遣国：セントルシア

職種：野菜栽培

派遣期間：平成22年1月～平成24年1月

配属先：セントルシア教育文化省
第四教育区分所

～平成22年度外国人住民エッセイコンテスト入選作品より～

【最優秀賞】

美しい秋晴れ

てい おんひ
鄭 音飛 (中国出身) 富山大学留学生



今日は、2010年9月18日。天気予報によると晴れ。いつもと変わらない平和な土曜日。午前中、家でごろごろしているうちに、部屋を片付けようと思い、思い切って大掃除をした。ばらばらに並んでいた棚の本を順序正しく並べると、あるものが見つかった。みどり色でほのかなバラの香りがする招待状である。それを見たとき、頭の中に残っていた記憶が一瞬にして蘇った。これが2009年10月17日のこと。1年前、私は大家さんの息子さんの結婚式に参加した。留学生の私が日本人の結婚式に招待されるなんて、全く思いもかけなかった。

家を貸してくれた大家さんは、大学の先生の友人で、中国に生まれた日本人である。中国のことをよく理解し、家を安い値段で留学生に貸していた。私より前に住んでいたのも中国の留学生夫婦だった。大家さんはいつも私に優しい声で「困ったことがあったら、いつでも連絡してくださいね」とおっしゃっていた。息子さんの結婚の時、私にも気を配って、招待状をくれた。あの日、封筒をあけて招待状を見た瞬間、私は感動した。大家さんの喜びを一緒にお祝いして上げたいと思った。

しかし、ひとつ問題があった。私は結婚式に出るのにふさわしい服を持っていなかった。そこで、学校の日本人の友達に相談すると、彼女は自分のドレスを私に貸してくれ、しかもメイクの方法まで熱心に教えてくれた。結婚式の前日は、心が落ち着かず、夜はほとんど眠れなかった。当日の朝は、8時に家を出て、30分早く会場に到着した。

大家さんの息子の結婚式は射水神社で挙げられた。とても神聖な感じだった。神社の神主の日本語が独特なアクセントなので、ほとんど聞き取れなかった。しかし感謝と喜びで胸がいっぱいになった。「結婚おめでとうございます。永遠に幸せを」私は心の中で祈った。……

時間が経つのは本当に早い、日本に来てからもう2年になり、いつの間にか日記を書く習慣がついた。

今日はとても素敵な気分だった。心が綺麗な人とのふれあいを思い出したからだ。この美しい富山の秋の記憶を記念として今日の日記に記したい。

こんな“国際交流”やっています！

～“世界はひとつ～あそんでたべてワンダーランド”

いみず・多文化共生ことはじめの会(射水市)～

射水市で外国籍住民と日本の地域住民が国籍を越えて出会い、理解を深めることを目的に開催した“～世界はひとつ～あそんでたべてワンダーランド”。イベント実施にあたり、計4回の実行委員会を開き、後半2回はブラジル、中国、パキスタン出身の住民も加わるなど、多国籍のメンバーが準備段階から協力しあい実現にいたりました。

ステージではいろんな国の音楽が披露され、地元のブラジリアン柔術のクラブによる模範演技も行われました。じまんのお国料理コーナーでは、おはぎ、水餃子、コシンニャがふるまわれ、料理教室では太巻き作りに挑戦しました。9カ国の民族衣装が試着できるメモリアルコーナーではプロの写真家の撮影も行われました。また、外国人のための高校進学説明会、多文化コミュニケーションの部屋も催され、言葉や文化の壁を越えて交流が深まった楽しい一日となりました。



実行委員も多国籍!～イベント無事終了を記念し～

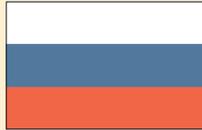
ブリヌイ

ロシアにはマースレニツァという春を呼ぶ伝統的な祭りがあり、そのときに決まって食べるのがブリヌイです。マースレニツァは別名バター祭りとも呼ばれており、その名のとおり、バターを使ったブリヌイが食卓の主役になります。ブリヌイは一言でいうとロシア風のクレープで、ロシアを代表する家庭料理の一つです。また具によって、いろんな味を楽しむことができます。



～作り方～

1. ボールに卵を溶いて、砂糖、塩、人肌ぐらいに温めた牛乳200ccを加えて混ぜる。
2. 1に小麦粉とベーキングパウダーを入れて混ぜ、なじんだところでさらに人肌に温めた200ccの牛乳を加え、お湯を少しずつ加えながらのばし、オリーブオイルを加える。
3. オリーブオイルを熱したフライパンに生地を薄くのばして焼く。ふちが乾いたら裏返す。そしてもう1～2分焼く。
4. 焼きあがったら好みの具を包んだり、クリームをかけてできあがり。好みで表面に薄くバターを塗ってもOK。



～材料～

【生地】

- 強力粉……………200g
- ベーキングパウダー小さじ…… 1/3
- 牛乳……………200cc×2
- お湯…………… 100cc
- 卵 2～3個
- 砂糖…………… 大さじ1～2
- 塩 小さじ1
- オリーブオイル…………… 大さじ2～3

【具】

1. チーズ、サワークリーム、イクラ、サーモン、ハム、きゅうり、トマト、レタス、刻んだゆで卵など適量
2. ジャム、蜂蜜

TICからのお知らせ

これからの行事予定

第6回 日本海学講座「渤海と古代の日本」

2月11日(金) 13:30～15:00
高岡市生涯学習センター研修室503

国際交流フォーラム in Earth Moving

3月5日(土) 15:00～
黒部市国際文化センター(コラーレ)
講演 “旅～ふれあい” 関口 知宏 氏 (入場無料)



環日本海交流会館 図書新着情報

同時通訳が頭の中で一瞬でやっている英訳術
リプロセッシング
カリスマ同時通訳者が教えるビジネスパーソンの英単語帳
プロが教える現場の英語通訳ガイドスキル
はじめてのウィスパリング同時通訳
通訳式学習法でどんどん話せるDONDON会話
実践英語スピーチ通訳
一式辞あいさつからビジネス場面まで
バイリンガル版 社長 島耕作
韓トレ韓韓辞典で単語力を鍛えよう！
シンプル韓国語入門編
韓国語ライティングの文例集
MBCの韓国語ニュース2000～2009年
韓国語基本文法練習帳
起きてから寝るまで中国語表現 超入門
ビジネス中国語マニュアル
今すぐ書ける中国語レター・Eメール表現集
使える！中国語ビジネス表現
覚えておきたい基本フレーズ
現場でそのまま使える事例別中国語フレーズ集
など多数

(財)とやま国際センター賛助会員募集及び 寄付のお願い

財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円
団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくごお願い申し上げます。

